

一票に込める 参院選 2010

2

町工場再生への施策を

大手工場の海外移転、円高、世界同時不況——。日本の製造業を支える町工場が、世界規模の荒波に翻弄される。「独自技術を持たない中小企業は消えてしまった」。板橋区の光学部品メーカー「ルケオ」会長の吉村健正さん(62)はそう嘆く。

23区で大田区に次ぐ工業力を誇る板橋区には、光学・精密機器や印刷関連の町工場が多く集まる。だが、1990年代以降、カメラ組み立て工場など発注元の海外移転により、倒産、廃業が相次いだ。

従業員数35人の同社は、今でこそ電球などガラス製品のひずみを調べる検査機器分野で国内トップのシェアを誇るが、一時は売り上げが激減。「手間がか



「中小企業が厳しい環境に耐えていることを政治家は理解してほしい」と話す吉村さん(板橋区大山金井町)

かる」と同業他社が嫌う「一枚から」の小規模な注文に対応することで生き残りに成功した。「大企業は食べ物を求めて海外にも行ける『動物』。中小企業は『植物』として、国内に、板橋に根をはって生き抜くしか

ない」。吉村さんは口元を引き締める。国際的な変化の波にさらされるからこそ、中小企業も、技術投資や新たな人材確保が求められる。吉村さんもそれを痛感しているが、そんな余裕はない。

「町工場は日本のものづくりを支えてきた。法人税を引き下げ、中小企業が技術開発費や人件費を捻出できる環境を整えるべき」と訴える。消費税など税制の見直しも大きな争点に浮上した今回の選挙を「冷静に見つめたい」。

直径0・03ミリの極細ドリルや工具を得意とする工作機器メーカーの「サイトウ製作所」(同区蓮沼町)。同社社長の斎藤裕さん(72)は、着古した作業着に袖を通し、「技術立国であり続けるために、国は先端技術への大規模投資を考えるべきではな

いでしょうか」と問いかける。子ども手当や高速道路無料化。新政権が打ち出してきた施策に「予算縮減や生活費の補填ばかりが幅を利かせているが、本当に国は良くなるのか」。

斎藤さんの会社もバブル崩壊直後、取引先の廃業が続ぎ、注文は激減した。この時、迷った末に自身や従業員の給与をカットし、3500万円の設備投資費を捻出、「極細」にかじを切った。「清水の舞台から飛び降りる覚悟だった」

注文は着実に増え、インターネット経由でアメリカやアジア各国からも注文が寄せられる。「あの3500万円を給与支払いに回していたら、確実に倒産していた」と振り返る。

これからの日本に必要なのはパイオカ、ナノテクか航空宇宙なのか。次世代を見通す見識のある政治家に、一票を投じるつもりだ。

(松田晋一郎)